



西小だより

桐生市立西小学校
令和7年度
NO.15
令和7年12月2日



寒さに負けず！自分に負けず！自己ベストを目指した 校内持久走大会

11月27日（木）校内持久走大会を行いました。今年度は、5・6年生がインフルエンザの流行にともなう学級閉鎖期間中であったため、1～4学生までの開催（高学年は別日開催）となりました。

当日は、少し肌寒いものの風がなく、まずはコンディションでした。子どもたちは、本番に備えて、体育の授業やランタイムで練習してきた成果を発揮すべく（走ることが好き、嫌い、得意、不得意に関わらず）、自己新記録をめざして一生懸命がんばって走ってくれたと思います。順位は、目に見えて分かりやすいですが、「どれだけ記録が伸びたか？」「がんばれたか？」は、人それぞれ、自分自身でしかわかりません。自己ベストが出せた人にはもちろん拍手！最後まであきらめずがんばれた人にも拍手！です。大切なことは、今日の結果（順位）だけでなく、この日のために努力を続けたことだということを子どもたちと共有することだと思います。



【元気に走る子どもたち】

なお、この日は、多くの保護者の方々に応援をいただきました。子どもたちも大きな励みになったと思います。お忙しいところ応援に駆けつけていただきました皆様にお礼申し上げます。



火災避難訓練実施

11月21日（金）火災避難訓練を実施しました。寒さに加え、空気が乾燥し、風が強くなるこれからの時期は火災の被害が心配されます。この日、子どもたちは、桐生消防の方から、訓練の意味や避難の仕方、自分で自分の身を守ることの大切さをご指導いただきました。



【避難訓練後の消火器を使った消火訓練の様子】



インフルエンザに注意！！

今年は、例年よりも早くインフルエンザが流行しています。新型コロナやマイコプラズマ肺炎の感染報告もあります。桐生市内の学校でもいくつかの学校がすでに学級閉鎖をしているようです。これからは、あらためて予防の徹底をお願いします。

<日常生活でできること>

- 手洗い・うがい：外から帰った後や、調理・食事前などには、石鹼を使って指の間や手首まで丁寧に洗いましょう。
- 咳エチケット：咳やくしゃみをする際は、ティッシュやマスクで口と鼻を覆い、飛沫が他の人に飛ばないようにします。
- 人混みを避ける：流行期には、特に高齢者や持病がある方は人混みを避け、やむを得ない場合はマスクを着用しましょう。
- 適切な湿度を保つ：空気が乾燥するとウイルスにかかりやすくなるため、加湿器などで室内の湿度を50～60%に保ちます。
- こまめな換気：季節を問わず、室内の換気は重要です。
- 十分な休養と栄養：バランスの取れた食事と十分な睡眠は、体の抵抗力を高めます。水分補給をこまめに行うことの大切です。
- 早めの受診：体調が悪いときは、我慢せず早めに病院へ行き受診をしましょう。

<お知らせ>

右のQRコードから西小のWebページをご覧いただいくと、過去の「学校だより」等がご覧いただけます。



西小ホームページ

西小の取組紹介

がんばっている西小の子どもたちや先生方を紹介します！

情報モラル講習会（5年生）



【情報モラル講習会の様子】

11月14日（金）5年生を対象とした情報モラル講習会を開催しました。講師に、市民活動団体セーフネットりょうもうの代表の方をお招きし、具体的でわかりやすくSNSやネット社会の危険性、見えない相手を疑うこと、ネット情報を安易に信用しないことを前提として情報に接するなど、心構えもアドバイスしてもらいました。

講習会後に講師の方からは、「『世の中には悪い人がいる』本当はこんなことを伝えたくはないのですが…今は、多くの子どもたちがスマホを与えられている状況で、スマホがらみの犯罪やトラブルは増加の一途です。子どもたちを犯罪やトラブルから守るためには、見えない相手を疑う気持ちをもつことも時には必要なんです。背に腹はかえられません。」とのお話を聞くことができました。

「我が家は大丈夫」は、もしかしたらそれは過信かもしれません。再確認・再認識のためにも、各ご家庭でスマホやネット上のトラブルについて、時折、話題に出していただき、犯罪やトラブルに巻き込まれないためにどうすべきか？家族で話せる機会をもっていただけると良いと思います。

音楽集会（市音楽学習発表会に向けて4年生）

11月18日（火）朝の児童集会の時間に4年生が合唱を発表してくれました。この日発表してくれたのは「大切な物」「変わらないもの」の2曲で、20日（木）に桐生市の音楽学習発表会で発表する曲目でした。

4年生の一生懸命な姿や歌声に集まった子どもたちは自然と引き込まれ、全校児童と先生たちは、朝の気持ちよいひとときを過ごすことができました。子どもたちの歌声には、観衆を引きつける力があります。時に感動し、涙がこぼれたり、勇気をもらったりする力。そして、その力を引き出してくれる先生もすばらしい！と再認識しました。



【音楽集会で『大切な物』を歌う4年生】

校長室から

「教育における不易と流行－校則から考える－」

昔の学校は、すごかった。「授業中に居眠りするとチョークが飛んでくる。宿題を忘れるとなげんコツ。掃除をさぼるとしばらく廊下に立たされ、給食を残すと食べるまで昼休みになってしまった。」などは、昭和の学校あるあるだ。それでも私にとって学校は楽しい場所だったし、毎日わくわくする場所だった。学校に行けば、友だちと会えたし、先生も大好きだった。そんな学校には当時、今ではあり得ない校則もあった。中学では男子は全員坊主（スポーツ刈り禁止・長髪は論外で職員室になぜかバリカンがあった。）女子の前髪やスカート丈も細かく決められ定期的に廊下に並び検査、靴下や運動靴は白のみ、中学に入るまでシャーペン禁止、匂い付き消しゴム禁止などなど、生徒手帳には「生徒の心得」として細則が何ページもあり、全校集会で音読した。その中の多くは理にかなったものや安全への配慮のためであったが、今思うと「どうかな？」と思えるものもあった。でも、あの頃があつての今。多少、窮屈で理不尽な規則・習慣や上下関係があったから今の自分があると思っている。私の場合、そのことをマイナスに捉えることはなく、むしろその状況の中でできることを楽しんでいた。今では、なつかしい思い出でとなっている。

今、時代や社会のあり方・考え方は大きく変化し「校則」にも反映してきていること（流行）は歓迎すべきであり、学校はアップデートしなければならない。しかし、教育の本質は「不易」でありたい。学校は、単に教科書にある知識だけを学ぶ場ではなく、子どもたちが家族以外の他者と関わり、小さいながらも「社会を形成する」ことを体感する場もある。それぞれが学校という小さな「社会」を快適に過ごすためには、合理的で理にかなった考え（ルール）が必要で、時に個人に自制を求めることが必要な場合もある。私たちは、「ダメだから…」「禁止になっているから…」の指導から、校則（ルール）の必要性（意味）を丁寧に伝え、子どもたちとともに考え、合意形成を図っていきたい。

